

京都府内の職場における熱中症の発生状況（令和 7 年）

令和 8 年 4 月 28 日
京都労働局健康安全課

1 職場における熱中症（業種別死傷者数）の発生状況

令和 7 年の京都府内における、職場での熱中症による休業 4 日以上の上業務上疾病者数（以下「死傷者数」という。）は、猛暑の影響等により 23 人となり、最も多かった昨年（26 人）よりも減少しました。

なお、熱中症による死亡災害は発生しませんでした。

表 1 業種別発生件数（令和 7 年）（人）

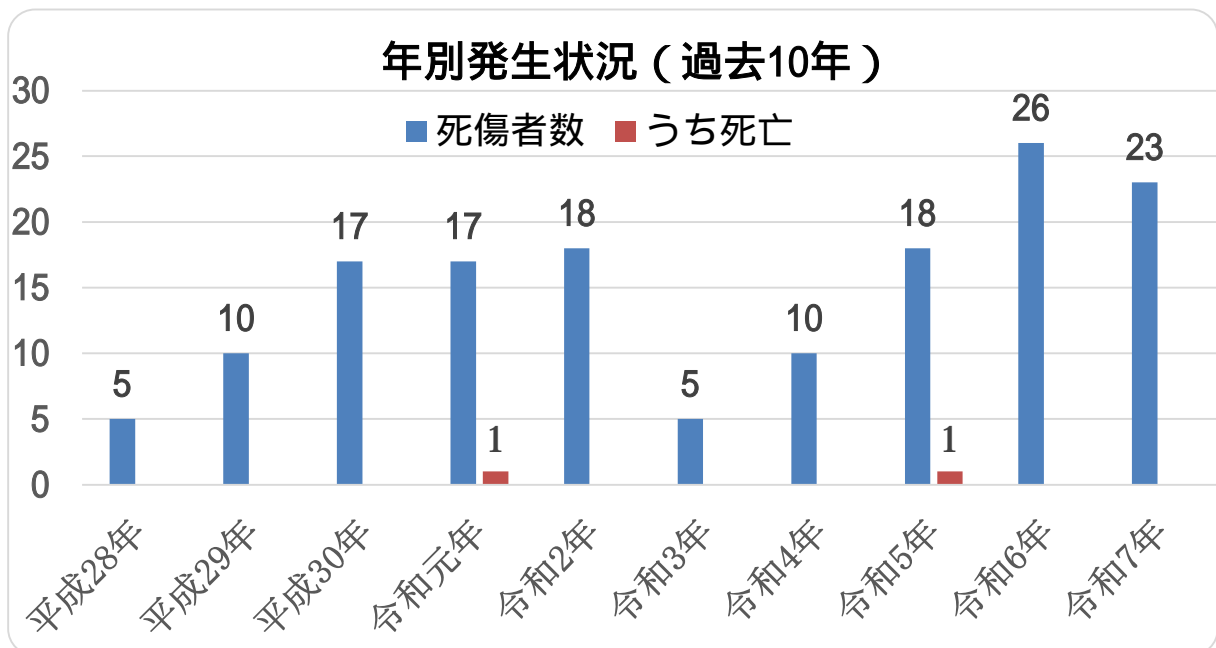
業 種	製造業	建設業	運輸業	警備業	商業	清掃業	その他の業種	計
令和 7 年 死傷者数	5 (0)	4 (0)	5 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (0)	23 (0)

() 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。

2 死傷者数の推移（過去 10 年、平成 28 年～令和 7 年）

過去 10 年間の死傷者数 149 人をみると、平成 30 年に 17 人と急増しました。令和元年は横ばいの 17 人（うち、死亡 1 人）、令和 2 年は 18 人に微増し、令和 3 年は冷夏の影響もあり 5 人に減少しました。しかし、令和 5 年は 18 人（うち、死亡 1 人）、令和 6 年は 26 人と過去最も多い人数に急増し、令和 7 年は熱中症重篤化防止のための労働安全衛生規則の改正があったこともあり、減少しています。

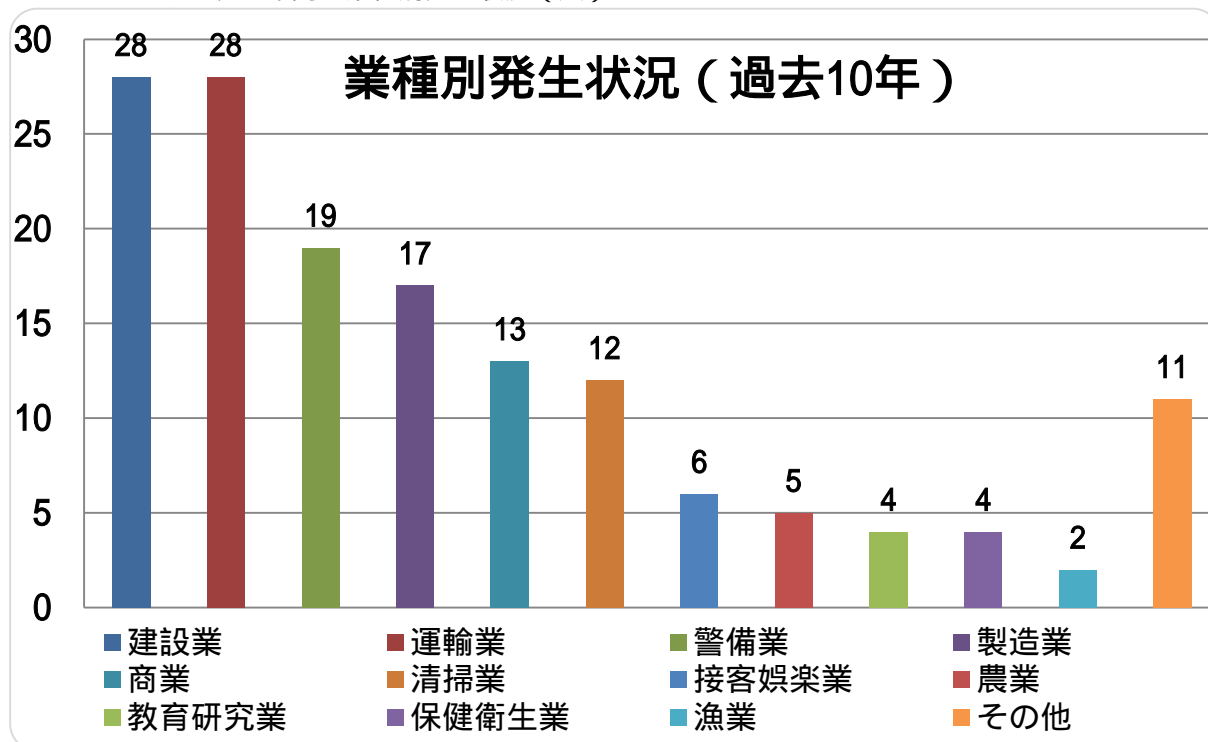
グラフ 1 過去 10 年間の死傷者数の推移（人）



3 業種別発生状況（過去10年）

過去10年間の業種別の死傷者数をみると、**建設業及び運輸業（共に28人）**が最も多く、**警備業（19人）、清掃業（17人）**の順となっています。死亡者は、**製造業**で2人発生しています。

グラフ2 過去10年間の業種別発生状況（人）

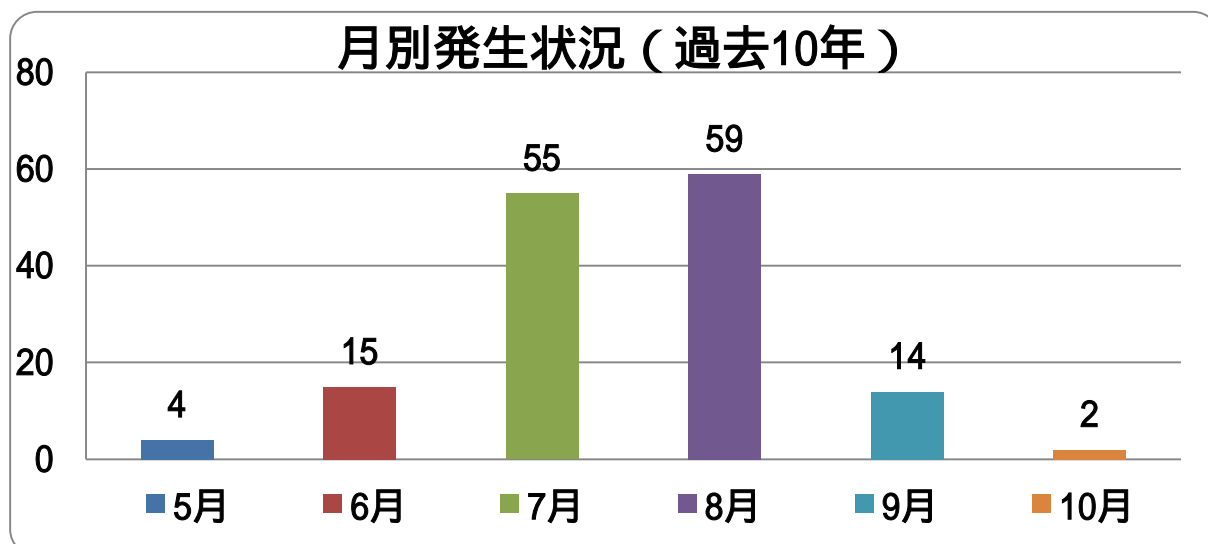


4 月・時間帯別発生状況（過去10年）

（1）月別発生状況

過去10年間の月別の死傷者数では、**7月及び8月に8割弱（76.5%）**が集中していますが、5月や10月でも発生しています。

グラフ3 過去10年間の月別発生状況（人）

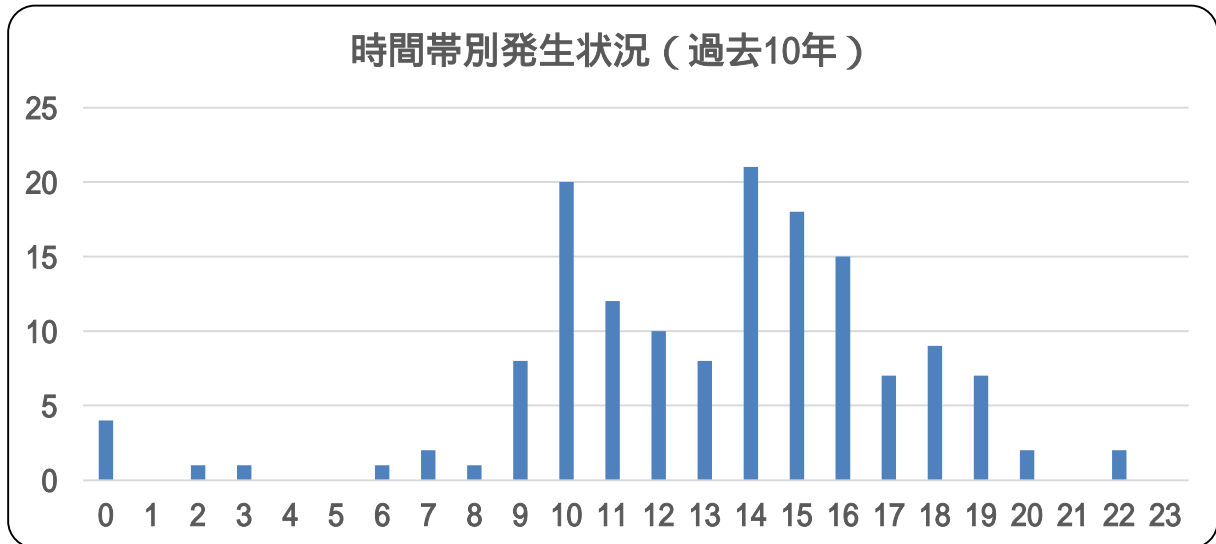


(2) 時間帯別発生状況 (過去10年)

過去10年間の時間帯別の死傷者数は、10時台、14～16時台に多く発生しています。

また、日中の作業終了後に帰宅してから夜間に体調が悪化して病院に搬送されるケースも認められます。

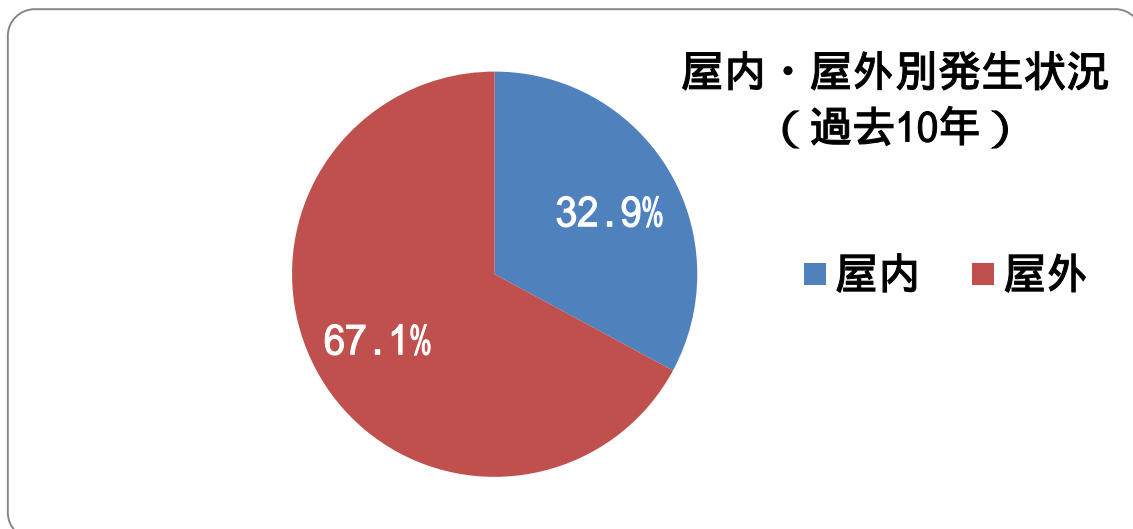
グラフ4 過去10年間の時間帯別発生状況(人)



(3) 屋内・屋外別発生状況 (過去10年)

過去10年間の死傷者数149人のうち49人(32.9%)、およそ3人に1人は屋内作業で発生しており、熱中症は必ずしも屋外での作業でのみ発症するわけではないことがわかります。

グラフ5 過去10年間の屋内、屋外作業の割合



死傷者数のおよそ3人に1人が屋内作業となっており、死亡災害の2件は屋内1件、屋外1件となっています。

< 参考 >

W B G T 値と気温、相対湿度との関係

		相対湿度(%)																
		20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
気温(°C)(乾球温度)	40	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	39	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43
	38	28	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42
	37	27	28	29	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41
	36	26	27	28	29	29	30	31	32	33	34	34	35	36	37	38	39	39
	35	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	38	38
	34	25	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	37
	33	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	32	32	33	34	35	35	36
	32	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	31	32	33	34	34	35
	31	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	30	30	31	32	33	33	34
	30	21	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	29	30	31	32	32	33
	29	21	21	22	23	24	24	25	26	26	27	28	29	29	30	31	31	32
	28	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31
	27	19	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	30
	26	18	19	20	20	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29
	25	18	18	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28
	24	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27
23	16	17	17	18	19	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26	
22	15	16	17	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	
21	15	15	16	16	17	17	18	19	19	20	20	21	21	22	23	23	24	

WBGT値	注 意 25℃未満	警 戒 25℃～28℃	嚴重警戒 28℃～31℃	危 険 31℃以上
-------	--------------	----------------	-----------------	--------------

(ここで、28℃～31℃は、28℃以上31℃未満の意味)

(日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver.1 2008.4 から)

熱中症による死亡災害一覧（過去 10 年）

	発生年 時間帯	業種	被災者概要 事業場規模	災害の概要
1	令和元年 17時	製造業 紙加工品製造業	男 40代 100～299人	工場内で製造作業中、熱中症で救急搬送された。 (屋内作業)
2	令和5年 9時	製造業 機械(精密機械を除く)製造業	男 40代 201～500人	出張先の宿泊ホテルから取引先に徒歩で移動中、熱中症となった。 (屋外作業)

熱中症とは

高温多湿な環境下において、体内の水分と塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称。めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直、大量の発汗、頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐・倦怠感、意識障害・痙攣・手足の運動障害、高体温などの症状が現れる。死亡に至ることもある。